

壇上で「姉妹結縁状」を交換する嶺南・湖南
および在日韓国・朝鮮人の代表者たち。岩城
喜之撮影



南北・地域間対立克服訴え

総心情同族圏平和統一大会

ソウル

【ソウル8日武田滋樹】

韓国の地域感情による対立、在日韓国・朝鮮人の思想対立を克服し、民族大和合を通じた平和統一実現を目指す「総心情同族圏平和統一大会」が8日午後、ソウルのリトルエンジェルズ芸術会館で開催された。

同大会は、世界平和超宗教超国家連合（IIFWP、郭錠煥世界会長）

と在日韓国・朝鮮人の和解と祖国統一実現のため今年七月、日本で創設された平和統一連合（具末謨会長）が主催し、統一省、韓国・世界日報（セギルボ）が後援した。根強い地域対立が続く韓国の嶺南（半島南東部）と湖南（同南西部）地域の各界指導者各五百人、日本の大韓民国居留民団（民団）と在日朝鮮

人総連合会（朝鮮総連）に属する在日韓国・朝鮮人各六百人が参加した。文鮮明IIFWP総裁が特別講演を行い、「心の歴史のなわだかまりを残したり、祖国分断の悲しみを日本まで再現する民団と総連の対立の壁をそのまま放置していいのか」と問い掛けながら、「まず心の壁を崩し、半

世紀以上離別して千辛万苦の末に出会った兄弟姉妹のように、抱き合って徹夜し、歓喜と感激の涙を流して、天民の誇りと立場を探し立ててほしい」と強調。その上で、「神が待望した祖国を創建する旗手となり、先鋒に立つ精鋭部隊の一員となろう」と訴えた。これに先立ち郭錠煥I

IIFWP世界会長の大会の辞に続き、鄭東泳・統一相の祝辞を李鳳朝次官が代読。鄭統一相はこの中で、「（今大会で）嶺南と湖南民団と朝鮮総連の指導者が一緒に送る平和のメッセージは、民族の共存と和合を願うわれわれすべての願いが込められている」と指摘し、「韓半島平和定着過程で、われわれが主導的で積極的な役割を果たせるよう、民族構成員すべての力と知恵が結集されることを願う」と強調した。

この後、嶺南、湖南、在日韓国・朝鮮人の参加者を代表して、李相得議員（ハンナラ党元事務総長）、韓和申・新千年民主党代表、黃七福・民団中央本部顧問、朴尚得・元朝鮮大教授がそれぞれあいさつした。

参加者は劉大行・平和統一連合中央常任顧問が読み上げた宣言文を通して、①真の愛と犠牲奉仕の実践で平和と統一時代を開く先駆者になる②民族大和合と平和統一運動に積極的に参加する③在日同胞の事情と苦痛を理解し、迅速に治療するため共同努力する④国際平和とハイウエーと韓日海底トンネル建設を積極支持する――ことを誓った。